

テーマ③：介護予防・日常生活支援総合事業に係る 協議体の立上げ支援

取組概要	支え合いの地域づくりを目指し、地域の中に今ある「宝物＝地域資源」を見つけ・発信し・深め・広げ、その上で地域で安心して住み続けていく為に必要なとりくみ(地域住民も担い手となる、地域とつながりを持てる)を創出するため、なかのなつちよ隊を発足
発表者	<ul style="list-style-type: none"> ・中野市高齢者支援課長 吉村 恵利子さん ・運動自主グループ 青空 森川 治幸さん ・シニア活動推進コーディネーター 戸田 千登美さん 松永 静香さん

1 取組の背景

- 介護予防・日常生活支援総合事業において、生活支援コーディネーターや協議体の設置が義務付けられた
- 新しく設置される生活支援コーディネーターに地域住民の主体的な意識づくりのノウハウがない。
- 協議体の運営等はどのようなものなのか。



- ・ 住民主体の地域づくりに向けて、シニア大学・社協等、関係機関が連携できないか。
- ・ 支え合いの地域づくりの大切さを理解してもらう必要がある。

2 取組を進める上での課題・対応

- ・ 住民主体の地域づくり ⇒ 介護予防教室受講後の自主的活動立ち上げ
社協・シニア大学と連携して住民の意識醸成と活動の立ち上げ
- ・ 関係機関の連携 ⇒ 関係機関の情報共有と情報の受発信。話し合いの場づくり。

地域ニーズの把握・地域資源の発掘から企画へ

3 取組の経過

- H26年12月 中野市高齢者支援課から相談
- H26年12月 総合事業担当職員向け研修に講師で関わる
- H27年1月 シニア大学北信支部のタウンミーティングに市担当者が初参加
その後、シニア大学社会参加授業・タウンミーティングに市が参加する。
- H27年2月 夢を語る話し合い「こんな中野市になったらいいな」をコアメンバーで開く
- H27年6月 豊田地区シニアの社会参加研修に講師で関わる
- H27年7月～H28年2月 総合事業における意見交換会を6回開催
- H28年7月 シニア大学北信学部の授業として、シニア大OB、中野市と連携して「まちの縁側講座」を開催
- H28年9月 シニア大生 保健センターフロアでまちの縁側を開催
- H28年10月 生活支援コーディネーター配置
- H28年11月 第7回総合事業における意見交換開催
(協議体設立に向けてメンバー選出)
- H29年2月 協議体について相談(県介護支援課・市・コーディネーター)
- H29年3月～H30年1月 協議体会合を6回開催
(第6回にて名称 なかのなっちょ隊`に決定)
- H30年4月 北信支部にシニア活動推進コーディネーター配置
- H30年5月～10月 なかのなっちょ隊`を4回開催
- H30年10月 支え合いの地域大交流会 出店説明会に講師で関わる
- H30年11月 支え合いの地域大交流会 開催
- H31年1月 第11回 なかのなっちょ隊`開催
- H31年1月 中野市さんさん講座に講師で関わる
- H31年2月 「みんななっちょだい?～話そう!支え合いの地域づくり～」開催予定

4 成果

- 市役所内での話し合いを重ね、職員間の方向性を共有できた(チームで取り組む)
- 日頃の関係性の中から少しずつ共感の輪を広げていった
- 「対話→学び→現場を知る」を繰り返す中で、関係する機関や人とつながっていった。
- すでにある住民の取り組みを見せる場面を企画したことで、協議体メンバーと住民双方が中野市のこれからについて意識する機会になった。
- 協議体主催、長寿支部主催のいくつかの事業では、住民自らの主体的な動きがおきている。

5 今後の課題・見通し

- 中野市の地域づくりに向けて、支部との連携を深める。
- 住民と共に学ぶ場、情報共有の場づくりによる意識づくりをすすめる。